

ドイツ文化論Ⅱ (German CultureⅡ)		1 年・後期・2 単位・選択必修 3 専攻共通 担当 田島 昭洋	
	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 A－1 (70%) C－2 (30%)	〔JABEE 基準〕 a, f	
〔講義の目的〕 カール・マリア・フォン・ウェーバー (1786-1826) 作曲の歌劇『魔弾の射手』全編を通して見る ことにより、ドイツ文化の一端に触れる。ドイツ語による歌劇としては、その前段階としてモーツァ ルト『後宮からの誘拐』と『魔笛』、ベートーヴェン『フィデリオ』が知られるが、『魔弾の射手』は、 ドイツ語圏を舞台にした初のドイツ語による歌劇であり、「ドイツ国民オペラ」として名高い。舞台 設定は 17 世紀中葉のドイツの森 (現チェコ) とされ、ドイツの民話に取材した「自然」、「素朴」、「魔 物」、「妖術」など魔的な存在感がロマン主義的であり、そこに見られる斬新な音楽技法が現代的であ る。とりわけ「ライトモティーフ」による音画法は、ワーグナーの楽劇に強い影響を与えた。民族の ふるさととしての「森」に愛情とともに畏怖を抱く素朴なゲルマンの魂の声をドイツ育ちの交響楽 (オ ーケストラと人声の一体化) で描いた「最もドイツ的なオペラ」の世界を探っていきたい。			
〔講義の概要〕 講義形式を基本とするが、音楽などの文化紹介にあたっては、音楽・映像ソフトや担当者による歌 唱実演を通して視覚的・感覚的なイメージを取り入れ、理解を深める。また、授業と関連したこと であれば、学生の要望・希望にできるだけこたえていく。			
〔履修上の留意点〕 受講にのぞむ真摯な態度や積極的な姿勢が重要である。			
〔到達目標〕 ・ストーリーの理解 ・響きの効果 (ドイツ語による歌とオーケストラ) の認識 ・ドイツの森の一面性の把握 ・登場人物とキャラクター・役割の認識 ・『魔弾の射手』の史的 position づけの考察 ・「ライトモティーフ」など音楽的要素の理解 ・「機械仕掛けの神」など演劇的手法の確認			
〔自己学習〕 語学の授業ではないのでドイツ語力は求めない。文化の歴史的背景や音楽的・視覚的要素の意味 を考えてくること。			
〔評価方法〕 提出物 (25%)、授業への参加度・取り組み姿勢・積極性〔発表やその回数〕(50%)、最終 授業日に行う到達度確認 (25%)			
〔教科書〕 教科書は使用しない。適宜、拙論のコピーを配布したり、参考文献を紹介したりする。			
〔補助教材・参考書〕			
〔関連科目〕			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	授業案内と担当者紹介	
第2週	第1幕第1番	『魔弾の射手』序曲と導入部（合唱、行進曲、リート） 合唱「勝った！名人万歳！」	
第3週	第1幕第2番	三重唱と合唱「おおこの太陽！」	
第4週	第1幕第3番	ワルツ、レツィタティーヴォとアリア「いやだ、この悩みには耐えられない」	
第5週	第1幕第4番 第1幕第5番	リート「このうつせみの世の中では」 アリア「黙っている 誰もお前の邪魔をしないように」	
第6週	第2幕第6番	二重唱「いたずらもの、しっかりつかまって」	
第7週	第2幕第7番 第2幕第8番	アリエッタ「すらりとした若者がやってきたら」 情景とアリア「まどろみはどのようにやって来たのでしょうか」	
第8週	第2幕第9番	三重唱「え、なに、まあこわい」	
第9週	第2幕第10番	フィナーレ、合唱「月の乳が草にかかった」	
第10週	第2幕第11番 第3幕第12番	間奏曲 カヴァティーネ「そして雲が太陽を覆っている」	
第11週	第3幕第13番	ロマンツェ、レツィタティーヴォとアリア「昔、亡くなったおばが夢を見たの」	
第12週	第3幕第14番	民謡、介添娘たちの独唱と合唱「私たちはあなたに花嫁の花冠を編みましょう」	
第13週	第3幕第15番	狩場監視人たちの合唱「この世で狩の楽しみに匹敵するものはなにか？」	
第14週	第3幕第16番	フィナーレ「見よ、おお見よ、彼は自分の花嫁を撃った！」	
第15週	到達度の確認	台本の訳出・登場人物とストーリーの理解など	
期末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）